［役員交代にあたって］

会長退任挨拶

平澤由平

わたくしは，平成5年から会長に就任し，通算8年にわたり，本職を務めさせていただきました．その間，大過なく会長職を務められましたことは，ひとえに会員並びに役員皆々様の強力なご支援ご鞭撻があったればこそと，心より感謝申し上げます．

しかしながら，高齢になり体力の限界を多少感じ入り，昨年の末頃から常任理事を始めとする役員の方々には，退任の意向を申しあげてまいりました．そして，この度の総会におきまして，退任の承認をいただきました．

改めて会長職の8年間を無事に務められましたことは，皆々様の絶大なるご協力のお陰でありますことを衷心より感謝申し上げます．いまの個人としての心境を申し上げますと，「安堵の思い」でございます．会長職を引継ぎます山﨑親雄新会長は，透析医療の経験豊富そして着想に優れた方で，かつ，年齢もお若いので，社団法人日本透析医会の今後の諸活動は，継続的に活発に一層の発展をされることと確信し，透析医会の存在意義の確立は，さらに進展されると信じています．

顧みますと昨今は，特に医会を取り巻く諸情勢には，きびしいものがあり，難問が山積されていますが，これまで問題が起こる度に常任理事各位に支えられて，無事に過ごしてきた想いが大きく，感謝の気持ちでいっぱいです．

ここで，少し昔のことを思い出しながら申し上げてみます．昭和53年12月に日本透析医会世話人会を設立，昭和54年4月に都道府県透析医会連合会を創設しました．都道府県のすべてに透析のグループが組織化されたわけではありませんでしたが，できる限り結集して，「連合会」が誕生しました．丁度，この連合会の誕生の前年頃から透析医療費に変革が起こり始めました．高度成長時代には，透析医療費も順調に上昇していました．一方では，行き過ぎだ，という批判もありましたが，昭和52年に1回目の診療報酬の見直しが行われました．さらに昭和56年には，診療報酬の大幅な手直しが実施されました．

昭和52年の診療報酬の見直しが起こったことにより，透析医療の将来に危惧感が生じました．当時は，厚生省・日本医師会あるいは，第三者の有識者というような人たちは，透析医療の実際について理解に乏しく，批判的な見方であったことなどが，その大きな理由でありました．この状態が続くのであれば，透析医療の定着，普及はむずかしく将来の治療体系の構築が危ぶまれるものと強い危機感を覚えました．

そのような情況の中で，透析医療従事者から，われわれの「姿勢も正す」が，厚生省や日本医師会に対し，透析医療の将来のありかたに関して正当に発言し，理解を求める「団体」の設立を求める声が，全国各地から強く起こりました．思えば昭和53年頃のことでした．

当時，関係者の中で，わたくしが一番の年長者とのことで「都道府県透析医会連合会」の会長に押し上げられました．しかしながら，昭和56年の透析診療報酬大幅引下げが苦い体験で，任意団体の「連合会」では活動に限界があることを痛感しました．そこで，厚生省認可の「公益法人」の資格を獲得しようと衆議一決しました．それからは，公益法人の設立を目途に機会あるごとに設立運動を展開してまいりました．

その後，連合会の会長に稲生綱政先生のご出馬いただき，名古屋の太田裕祥先生とわたくしが副会長とし

て稲生会長を補佐する新しい体制ができました．昭和58年のことでした．引き続き連合会の公益法人化運動を強力に推進していくこととし，都道府県代表の理事各位の強力な支援のもとに多くの準備作業が進められました．特に，翁久次郎先生のご支援は，今でも大変有り難く思っています．それに，田村弁護士や松田鈴夫先生のご尽力にも感謝しています．連合会では，鈴木満専務理事並びに吉田豊彦常任理事のご活躍には，心より感謝しています．そして，難問中の難問であった日本医師会の賛意をいただき，念願叶い昭和62年7月に公益法人として「社団法人日本透析医会」が認可され発足いたしました．

当時のことを想うに，そのときは「本当にうれしかった」ことを思い出します．いくつもの難儀な事柄があって，一つ一つ難問を処理しながらのことでしたので，厚生省から認可されたときは，超一級品の喜びでした．また，この運動の初期には，非難する「声」が目立ちましたが，やがて透析医療を正当に理解してくれる方々が多くいらっしゃるようになって，心強い思いもいたしました．

任意団体「日本透析医会」から「社団法人日本透析医会」となりまして，初代会長に稲生綱政先生を戴き，産声を上げました．いまでも，走馬灯のようにいろいろなことが次々と思い出され，万感胸に迫る思いです．ともあれ，法人になってからは，われわれの提言の多くを厚生省を始めとした関係団体が耳を傾け，受け入れていただくことができました．

結論的に申し上げますと，われわれが最初に考えたような基盤の整備は出来上がりつつあるのではないかと，また，それに伴って業績を得ることができたのではないかと思っています．

誠に長い間，ご支援を賜り厚く御礼申し上げます．新会長山﨑親雄先生は，ご周知のとおり，医療制度や保険医療について造詣が深く，多くの情報を集めて中庸を以て歩む方で，組織力にも優れた資質の持ち主です．今と将来の展望を見極め十分に本会を背負って立つ人物であると考えています．透析医療経済は，未曾有の厳しさに直面し，これからの道のりは，暗くて長い隧道を行かなければ，明るいところには出られないと予想されます．この時期を乗り切るのには，山﨑新会長は，最も相応しい指導者と確信しています．わたくし同様の御支援を賜りますようお願いいたします．

ここで，紙面を拝借いたしまして，先般は，大役解放の緩みからか体調を崩し，退任挨拶が遅れましたこと大変失礼いたしました．ただ今は，体調十分に回復いたしました．ご心配をおかけいたしました．

最後になりますが，われわれの社団法人日本透析医会の一層のご発展と会員各位のご健勝を衷心より祈念いたしまして，退任の挨拶にかえさせていただきます．

（名誉会長）